

なぎなたのまち伊丹における武道必修化への実践



伊丹市教育委員会保健体育課
指導主事 村上雅博

兵庫県の伊丹市において、なぎなたは江戸時代からの伝統文化である。新学習指導要領では、改訂教育基本法の趣旨である「伝統と文化の尊重」を反映させるため、中学校保健体育科で武道必修化が盛り込まれ、内容の取扱いで「地域や学校の実態に応じて、なぎなたなどその他の武道についても履修させることができる」とされた。

伊丹市教育委員会では、今回の改訂は、多くの生徒が地域武道なぎなたに触れ、良さを体験でき、地域に関心を持てる千載一遇の機会になると考え、なぎなた授業の研究を進めてきた。

今回は、学校や関係団体の方々と連携し、武道精神を生かした伊丹ならではの実践をおして、「夢と魅力あるまち伊丹の未来を託す人づくり」の実現を目指す取組の様子を報告したい。

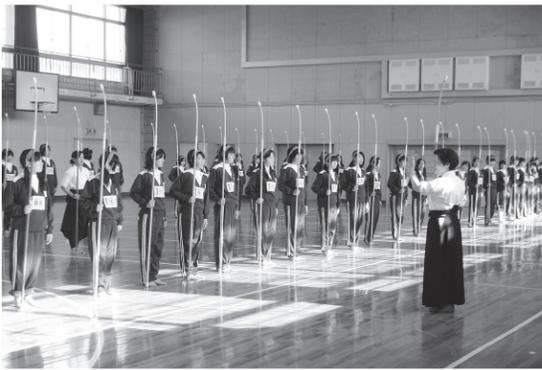
1

はじめに

「なぎなたのまち伊丹」

の本部も伊丹市に設置されている。

更に、「のじぎく兵庫国体」のなぎなた競技会場になったことや、(財)地域活性化センターの支援により、「全国高等学校なぎなた選抜大会」が、第1回から継続して伊丹で開催されていることなどもあり、「なぎなたは伊丹の武道」との認識は多くの市民が持っている。しかし、なぎなたを実際に経験する機会は少なく、「なぎなたのまち伊丹」の伝統を継承してい



授業全体風景

く上での課題となっている。

また、私自身は、なぎなたの経験はないが、担当指導主事としてなぎなた大会等に携わる中で「間」と「間合い」を大切にしているなぎなたの魅力を感じた。

お互いの「間」を五感で感じて競技する(尊重)。2mを超える長い柄物で「間合い」を計りなが

ら、いざと言う瞬間に思い切って飛び込む(勇氣)。

これは、最も大切な人や物を護るための心と技を磨くことや、悩みや試練に負けない力、幸せを実現できる力を引き出すことに通じていると思ひ、なぎなたを通じた伊丹ならではの教育推進を考えてみた。

2

なぎなた授業に向けて

(1) 中学校武道必修化に向けた「地域連携指導実践校」事業
従来は、市内の多くの中学校が、男子が武道、女子がダンスを選択していたため、女子の武道を指導する教員が少なく、今回の武道必修化による新たな研究が必要であった。

そこで、まずは女子武道において、なぎなたの授業を導入する方向となり、今後の伊丹の伝統武道

伊丹市には、酒造業で栄えた伊丹の町を、町人たちが自衛するために設立した私設道場が原型となり発展した日本三大私設道場の一

つである「修武館」があり、江戸時代以来の歴史を有している。なぎなたでは、「天道流」が伝承されており、(財)全日本なぎなた連盟

ながら地域の教育力を生かした実践をおして、着実に成果を出すことで研究を市内へ広めていけるように心がけた。

(2) 課題と対応

実践にあたって、会議では、次の2点が大きな課題となったので、それぞれの対策を練った

① 伊丹市内の中学校保健体育科のほとんどの教員が、なぎなたの未経験者であること。
・授業は、外部講師(T1)と中学校の保健体育科教員(T2)とのTT方式で行った。
外部講師には、伊丹スポーツセンターなぎなた教室指導者と教育委員会職員が加わった。また、学校教員へは、指導ポイント等の実技講習を適宜行った。

・教育委員会が会議事務局となり、なぎなた授業カリキュラム、指導法と評価等の試案を作成提示し、実践の中で検証した。

② 授業で使うなぎなたや防具がないこと。



防具着装指導



防具打込み



試合

変綺麗であり、多くの参観者から好評を得た。

③ 「メンー」「スネー」と声を出すことに抵抗のある生徒もいたが、みんなで行うので少しずつ大きくなっていった。

④ 2人組でのしかけ(打突・応じ(受け)では、しかける方も応じる方も恐る恐るであった。間違っても頭を打ってしまわないか、うまく受けられなかったら痛そう」との恐怖感が強くて、初めは超スローモーションであった。柄

部や刃部で受けることには、安全指導の面からもより細かい段階を積み上げるような指導法を、教員と協議するのを感じた。

⑤ 14時間設定で防具着装の学習は難しいのではないかとこの意見もあつたが、防具も整備できたので思い切って試みた。

今回は、3〜4人で1組の防具を準備した。なぎなたの防具には、紐がたくさん使われていることもあり、苦勞する生徒も多く、更に、手拭いを頭に着けることも、ほと

んどが初めてだったことから、予想以上の時間を要した。

しかしながら、慣れてくると手際よくなり、また防具着用の目標時間を設定するなどで意欲的になる効果もあつた。

更に、防具を身に着け面やスネを防具で受けると、受ける方は痛さも和らぎ安心でき、打つ方も打ち込む実感を持てるようになり、次第に打突にも力強さが加わってきた。

⑥ 礼儀作法は大切であるが、作法を単独で指導するのではなく、実技の中で指導することで、生徒には必然的な形で伝わり、自然に身に付いていたように感じた。

最終日には、簡単な試合を行った。生き生きと取り組んでおり、生徒はなぎなたの醍醐味を感じたようであった。

(3) 研究実践の発信

・実践校の授業を公開し、授業の模様や資料を市内中学校体育科教員へ発信した。

・伊丹市教育委員も授業を参観され、武道精神を生かした取組であるとの評価を得た。

・オープンスクールでも、授業を保護者・地域へ公開した。

・新聞等でも報道された。

3 授業の実際

(1) 指導計画について

実践校の2年生男子が武道(柔

道)の授業を行っていた時期にあわせて、2年生女子に3学期(1/18〜2/18)に、14時間で実施した。

また、指導計画を以下のねらいで立てた。

*【別表参照】

① 14時間の指導計画の中で、なぎなただけの基本技の学習を8時間、防具を身に着けての実際の打ち込みや試合などの学習を6時間取り組んだ。初体験の生徒が多いので、新しい技を学習したら

② 第1時間目のオリエンテーションでは市立伊丹高等学校の保健体育科教諭(なぎなた部顧問)も招き、演技と試合競技のデモンストレーションを行い、生徒たちになぎなたの高度な技や技能を見せて、授業でのイメージを持たせた。

③ 評価は、第8時間目に、外部指導者が生徒一人ずつの実技試験で判定し、最終的には教員が関

① 寒い時期であったが、生徒も全員が素足で取り組み、体育館の入り口には、脱いだ上靴が綺麗に並べられていたことは印象的であった。

② なぎなたは長いので準備や片付けの際にも注意が必要であったが、膝について丁寧に行っていた。

また、なぎなたを持つ立ち姿は、ほとんどの生徒の背筋が伸びて大



外部指導者による模範試合



しかけ・応じ



防具着装指導

・防具等は学校体育振興事業で必要な分は購入できたのでこの制度を活用した。

・防具で必要な手拭いは兵庫県なぎなた連盟の方々などの協力を得て準備した。

次の時間は復習を中心に定着を図った。

(2) 授業実践での様子から

私は授業の指導をしなかったが円滑な実践の連携役として参観し、次のような生徒の様子が見られた。

① 寒い時期であったが、生徒も全員が素足で取り組み、体育館の入り口には、脱いだ上靴が綺麗に並べられていたことは印象的であった。

② なぎなたは長いので準備や片付けの際にも注意が必要であったが、膝について丁寧に行っていた。

また、なぎなたを持つ立ち姿は、ほとんどの生徒の背筋が伸びて大

心意欲等を含めて総合的に評価した。

*【実技採点基準表】参照

④ なぎなたの学習前と学習後に、アンケート調査を実施し、検証した。

*【別表参照】

⑤ 生徒の参考となるようにテキストを作成して配布した。

4 成果と課題

(1) アンケートと生徒の姿容

▽学習前
「なぎなたを知っている」が約80%だったが、「やったことがある」が約3%で、「知っているが経験したことがない」状況であった。「なぎなたのイメージ」は、難しそう、痛そうとの生徒も多かった。

▽学習後
「なぎなたは楽しかった・どちらかと言えば楽しかった」が85%以上を占めた。「またやってみたい」は80%以上の回答があった。

中学生にとっては、なぎなたは、ほぼ全員が授業で初めて経験したので、同じスタートラインで基本動作や技を学べたことから、技ができる楽しさや喜びを多くの友達と共有できた。

▽学習後の感想から
① 「初めは難しそうだなと思っただけ、やってみると楽しかった」等、多くの生徒が関心を持って、手応えを感じた。

② 「一つ一つの礼儀作法とかも普段の生活に役立てていきた

い」との感想も多くあり、立ち姿の姿勢が良くなり、相手を尊重する態度が身に付くなど、武道精神を生かした取組の効果を感じた。

③ 「伊丹のスポーツができて良かった」との感想もあり、伊丹のまちに愛着を持つ生徒の育成や、伊丹の文化を大切にしたい人づくりに寄り添える機会となった。

(2) 会議等での指導者・教員の感想から
① 生徒の発達段階や運動能力に応じた指導研究を進めた結果、成果を得ることができた。

② 実際に授業実践をすることでカリキュラム・指導方法や評価などを検証し、課題が明確になるとともに、その対応も検討でき、教員のなぎなた授業への不安を緩和する機会となった。

③ なぎなたの指導に関して、外部指導者のなぎなたの基本を大切にしながら指導によって効果があった。

④ 教員は、生徒への個別指導

(3) 課題

① 本市において、なぎなた授業の実施には、当面は外部指導者が必要であると思われるが、講師を今後拡充するのであれば、予算や講師の確保などが課題である。

② 武道具の整備が急務であるが、多額の予算も必要である。今後は、学校の状況に応じた時間数や学習内容を考え、例えば、なぎなただけでなく始めるなど必要な武道具から準備する方法等も検討する。

また、①や②の対応には、地域のなぎなた競技者の協力や、使わなくなった道具の提供等も更に模索したい。

③ 外部指導者による指導は非常に効果があったが、一方で中学校教員と外部指導者との綿密な連携と、その時間確保なども課題となった。

④ なぎなた指導を市内へ広げるためには、中学校保健体育科教員への実技研修等による指導力の向上が必要である。

⑤ 関係団体との協議により地域と連携した武道を一步推進することができた。

⑥ 全国大会出場の実績が多いなぎなた部を持つ市立伊丹高等学校の顧問教員にも適宜指導していただいたことは、中高連携を図る好機ともなった。

5

まとめ

今後の展望

初めての取組で不安も大きかったが、多くの方々の理解や協力、支援のお陰で、大きな一歩を踏み出すことができ、感謝で一杯である。

その中で、武道の意義や楽しさ、伝統への理解などの成果とともに課題も明確にすることができた。

伊丹市教育委員会では、この実践を基にして、平成22年度は新たなもう1校でもなぎなた授業を実施し、中学校の体育科教員がT1で指導する等、取組が拡充でき、今後は、平成24年度の全校実施を目指している。また女子と共に男子の学習展開等の研究を進めることになっている。

今年度からは「中学校体育教員対象の実技講習会」や「幼稚園なぎなた体験教室」なども実施するなど、なぎなたの良さを市内の学

校・幼稚園へ広げる取組も行っている。

今回、私は各団体との連携やカリキュラム・武道具等の環境整備を進めた。一方、指導面では、生徒も教員もなぎなたがほとんど初体験だったが、外部指導者の「なぎなたの魅力伝えたい」との情熱と生徒の良さを引き出す指導により、まず教員の研究心が高揚した。そして比例するように生徒が意欲的に取り組んでいた。先生が変わると生徒も成長する姿から「子どもにとって最大の教育環境には、指導者の熱い情熱と弛まぬ向上心が重要である」と感じた。

今後も、武道精神を生かした健全な生徒の育成や街づくりを目指し、なぎなた授業を通して、夢と魅力あるまち伊丹の未来を託す人づくりの実現を願い実践研究を着実に進めていきたい。

【参考文献】

(1) 月刊「武道」平成21年2月号、9月号、22年2月号



幼稚園なぎなた教室



授業全体風景



実技試験



中学校教員実技研修



授業全体風景

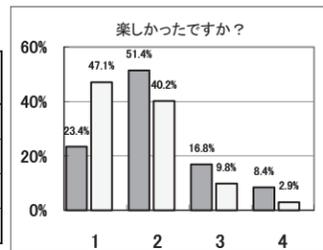
第7・8時限	打ち返し しかけ・応じ 演技競技の観 点 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・1対多数で、足捌き、上下振り、面打ち、側面打ち、すね打ち、左右面・すね打ちを行う。 ・打ち返しを練習する。相互に「応じ」も行う。→スピードを上げる。 ・「しかけ・応じ」1本目・2本目を行う → 交互に行う。 ・審判法を学習する → 模範演技の判定を行う。 ※8時限目は7時限目の復習及び、実技テストを行う。→評価
第9・10時限	打ち返し しかけ・応じ ひもの扱い方 防具の名称 防具の着 装	<ul style="list-style-type: none"> ・1対多数で、足捌き、上下振り、面打ち、側面打ち、すね打ち、二段打ちを行う。 ・打ち返しを練習する。相互に「応じ」も行う。→スピードを上げる。 ・「しかけ・応じ」1本目・2本目を行う → 交互に行う。 ・結び方の練習 → 交互に行う。(見て結ぶ。背中で結ぶ等を練習する) ・なぎなた防具の名称→テキストと実物で確認。 ・グループごとに行う。→ お互いに手伝いながら着ける。 ・防具着用し、基本打突を繰り返し行う。→ 有効打突の確認。 ※10時限目は9時限目の復習を中心に行いながら、主に有効打突の確認をする。
第11・12時限	防具着用 有効打突の確認 二・三段打ち 打ち返し 五角稽古	<ul style="list-style-type: none"> ・1対多数で、足捌き、上下振り、面打ち、側面打ち、すね打ち、二段打ちを行う。 ・有効打突の確認→面・胴・垂れ・小手・すね当てを着けて打つ。 ・打突は「面・側面・すね」の練習→1本打ち、打返しを行う。除々にスピードをあげる。 ・防具着用し、「正面→すね→すね」「すね→側面→すね」等の連続技を行う。 ・連続打ちの練習→グループに分かれて→ 正しく打てたか、大きな声が出たか、ものうちを意識して打突したか、等を判定する。 ・今まで練習した技を使って五角稽古をする。打突した中で有効打突を実感する。 ※12時限目は11時限目の復習を行う。→ 12時限目は主に五角稽古を行う。
第13・14時限	防具着用 打ち返し 簡易試合 なぎなた競技 評価・反省	<ul style="list-style-type: none"> ・防具がきちんと体に着いているか。ひもをしっかり結んでいるか。 ・1本打ちの基本練習の後、「打ち返し」を繰り返し行う。 ・学習してきた技能を生かし、攻防を楽しむ。 ・攻防の中での有効打突を審判する。 ・ごく簡単な試合練習(3人組個人戦)を行う。 ※14時限目は13時限目の復習とともに、班別対抗戦を行う。 → 簡単な競技形式をとり、試合審判と演技審判を行う。 ・「なぎなた」を学習した感想をアンケートでまとめる。

なぎなたの学習内容とすすめ方(14時間の場合)

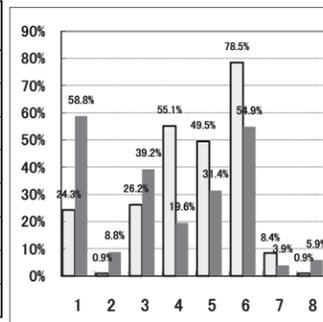
学習のねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・なぎなたを、我が国わが町(伊丹)の大切な文化として認識させ、その特性や成り立ちを理解させる。 ・技能の習得を通して、基本動作、基本打突並びに礼儀作法を理解させ、身につけさせる。
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲・態度 思考・判断 運動の技能 知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぎなたの特性に関心を持ち、楽しさや喜びが味わえるように取り組む。 ・礼儀作法など伝統的な行動の仕方を学び、日常生活の中でも実践しようとする。 ・自分の能力に適した練習のしかたを工夫する。 ・他の人の素振りや構え足捌きなどの動きを分析し、自分に取り入れる。 ・なぎなたの特性に応じた技能を身につけ、指揮者の指示に対応した練習ができる。 ・ものうちで打突部位を打つことなどの有効打突について理解して取り組む。 ・なぎなたの名称、打突部位を知る。 ・演技競技、試合競技の意義、ルール、簡易審判のしかたを知る。
学習内容(主な指導内容)		
第1・2時限	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 中段の構え 面打ちと体さばき 振上げすね打ち アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部指導者による模範の演技と試合を見て、なぎなたを理解する。 ・なぎなたの歴史や授業の進め方を理解する。(テキスト) ・なぎなたの構造・手幅・足幅・姿勢・着眼(視線)・足捌きを行う。 ・軸手の位置を確認させ「面打ち」と体さばき、「面の応じ」を行う。 →号令をかけ合って行う。=気力に満ちた大きな声。 *3~4名で行う ・軸手の位置を確認させ「振上げすね打ち」とその「応じ」を行う。 →号令をかけ合って行う。=気力に満ちた大きな声。 ・なぎなたに関する関心などについてアンケートを行う。 ※2時限目は1時限目の復習を中心に行う。
第3・4時限	<ul style="list-style-type: none"> 八相の構え 側面打ち すね打ち 応じ方 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぎなたの持ち替えを練習する。→中段の構えから八相の構えに入る。 ・八相の構えから「面」を打つ→左右対称に打つことを体で覚える。 ・八相の構えから「すね」を打つ→左右対称に打つことを体で覚える。 ・面打ち、側面打ち、すね打ちを大きくのびのびと行う。→気力に満ちた大きな声。 ・上記の打ちの「応じ(受け)」を練習する→グループごとに「相対」で交互に行う。 ・1対多数で、足捌き、上下振り、面打ち、振上げすね打ちを行う。 ※4時限目は3時限目の復習を中心に行う。
第5・6時限	<ul style="list-style-type: none"> 打ち返し 打突と応じ しかけ・応じ 演技競技の審判 	<ul style="list-style-type: none"> ・打ち返しを練習する。相互に「応じ」も行う。 ・相対になり、上記「打突」と「応じ」を行う→刃部と柄部での「応じ方」を練習する。 ・「しかけ・応じ」1本目・2本目を行う→交互に行う。 ・グループごとに「しかけ・応じ」1本目・2本目の演技競技審判をする。 ・1対多数で、足捌き、上下振り、面打ち、側面打ち、すね打ち、左右面・すね打ちを行う。 ※6時限目は5時限目の復習を中心に行う。

中学校体育授業なぎなた 授業後アンケート

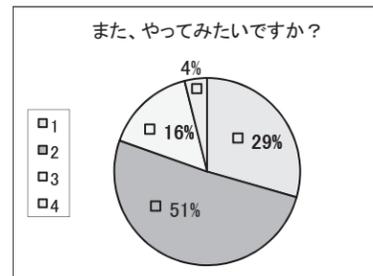
A 「なぎなた」を授業で行いましたが、今の気持ちを次の4つから選んでください。	※事前	事後
1、なぎなたは、楽しかった	23.4%	47.1%
2、なぎなたは、どちらかと言えば楽しかった	51.4%	40.2%
3、なぎなたは、どちらかと言えばつまらなかった	16.8%	9.8%
4、なぎなたは、つまらなかった	8.4%	2.9%



B 「なぎなた」は、やってみてどうでしたか? いくつかでも○をつけて下さい。	※事前	事後
1、面白かった	24.3%	58.8%
2、簡単だった	0.9%	8.8%
3、スカッとした	26.2%	39.2%
4、痛かった	55.1%	19.6%
5、怖かった	49.5%	31.4%
6、難しかった	78.5%	54.9%
7、よくわからない	8.4%	3.9%
8、その他	0.9%	5.9%



C 「なぎなた」をする機会があれば、またやってみようと思いますか? 次の4つから選んでください。	合計
1、また、やってみよう	29.4%
2、どちらかと言えば、またやってみよう	51.0%
3、どちらかと言えば、もうやりたくない	15.7%
4、もうやりたくない	3.9%



D 「なぎなた」で学んだことは、自分ではできたと感じていますか?	ア 出来た	イ どちらかと言えば出来た	ウ どちらかと言えば出来なかった	エ 出来なかった
①なぎなたのとりかた、なおし方	60.0%	33.0%	6.0%	1.0%
②礼の仕方	65.0%	30.1%	4.9%	0.0%
③声を出す	28.4%	41.2%	25.5%	4.9%
④足さばき(前・後・歩み足)	44.7%	48.5%	5.8%	1.0%
⑤中段の構え	62.7%	34.3%	2.9%	0.0%
⑥メン打ち	60.4%	38.6%	1.0%	0.0%
⑦スネ打ち	55.9%	42.2%	2.0%	0.0%
⑧(二人組での)仕掛け・応じ 一本目	52.1%	41.5%	6.4%	0.0%
⑨(二人組での)仕掛け・応じ 二本目	47.1%	43.3%	9.6%	0.0%
⑩防具を身につける	30.4%	43.1%	20.6%	5.9%
⑪防具を着てメンやスネを打たせる	32.0%	53.0%	10.0%	5.0%

なぎなた テスト(実技)用 採点基準表

得点	関心・意欲・態度		技能・体力		
	態度・礼法	着眼	打突・体勢		
	着衣・姿勢		足捌き	構え	発声・気迫
5	◎ 背筋が伸び、美しい「礼」が出来る。凛とした姿。 正しく・おおらかに、のびのびとした態度でなぎなたを楽しんでいる。	◎ しっかりした着眼。 集中して相手を見ている。	◎ 体(足)さばきがスムーズですばやい動き。	◎ 切先に「気」が入り構えがしっかりしている。	◎ 元気で氣力に満ちた打突と大きな声。
4	◎ 背筋が伸び、美しい「礼」が出来る。	○ まっすぐ前を見て、打突している。	◎ 体(足)さばきがスムーズですばやくなってきた。	○ 構えた切先に「気」が入っている。 氣力に満ちた打突が出来る。	◎ 大きな声が出る。
3	◎ 背筋が伸び「礼」が出来る。	○ 顔を上げて相手を見ている。	○ 体(足)さばきがスムーズになってきた。	○ 打突に氣力が出てきた。	○ 声が大きく出るようになってきた。
2	○ 「礼」が出来るようになった。 なぎなたを理解しようとしている。	△	△	○ 打突の姿勢は良いが氣力が弱い。	△
1	○ なぎなたの授業に参加している	△	△	△	△

※上記テスト内容:体(足)さばきと「面」打ち、「打ち返し」→号令による。「号令」と「受け」は指導者が行う。

構え: 自然体から「正面に礼」→「中段に構え」→「八相に構え」→「中段に構え」→体さばきに移る。

体捌き: 送り足→「まえ」「まえ」「あと」「あと」、歩み足→「歩み足まえ」「歩み足あと」→打突に移る。

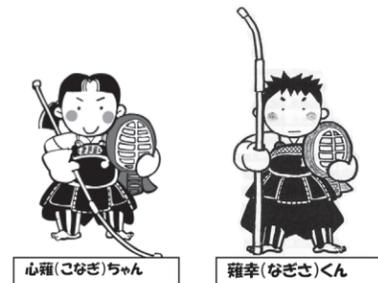
打突: ①1本打ち→「面」を打ち、継ぎ足で元の位置にもどる。号令は、「面」を打て→「中段」

②連続打ち→「打ち返し」を号令どおりに行う。



選抜大会

伊丹市で開催されている「全国高等学校なぎなた選抜大会」キャラクター



キャラクター